北海道病院ライブラリー研究会の取り組み

－持続可能な活動の模索－

藤本衣代¹⁾、岸上友紀²⁾、工藤女恵³⁾、大友理佐子⁴⁾、蓮實えり子⁵⁾、堀江洋一⁶⁾、
勇まゆみ⁷⁾、宮津志津子⁸⁾、福井堅一⁹⁾

1) 手稲溪仁会病院、2) 日鋼記念病院、3) 天使病院、4) 札幌保健医療大学、5) 東札幌病院、
6) 函館中央病院、7) 釧路孝仁会記念病院、1)~9) 北海道病院ライブラリー研究会

【はじめに】

北海道病院ライブラリー研究会（以下研究会）は、北海道における病院図書室の質的向上と発展を目的として1986年会員8名でスタートし、2026年に40年を迎える。これまでの研究会活動を振り返りつつ、研究会活動が果たしてきた役割や取り組み、今後の課題について考える。

【活動内容】

研究会の主な活動は、研修会の開催、機関誌NEWS LETTERの発行、医学雑誌所蔵目録の作成、相互貸借、会員施設の現況調査、ホームページ公開などがある。研修会の開催とNEWS LETTERの発行は発足当初から続いている。ホームページについては2001年に開設され、2度のリニューアルを経て継続している。また、隔年で実施している現況調査では、会員のニーズを把握し活動内容に反映させている。研究会の運営は、運営マニュアルに基づき、役員と協力員で構成された各担当により分担して行っている。

【研究会の現状】

近年、会員の退職や異動後に後任者が不在となる施設があり、それに伴い会員数が減少している。さらに役員や協力の急な異動や退職があった場合、従来通りの活動内容の継続が困難になることが予想される。この状況に対応するため、2023年7月に会員へのアンケート「北海道病院ライブラリー研究会の今後の活動について」を実施した。また、2024年11月の研修会では、「研究会の今後について」と題した総合討論を行った。さらに2024年12月には、研究会の今後の運営の参考とするため、オンライン研修やメーリングリストについて、他団体からの情報収集を行った。

【今後の課題】

研究会活動を通じて病院図書室間の連携、資料の相互利用、担当者の教育等、研究会が果たしてきた役割は大きい。しかし病院図書室を取り巻く環境は変化しており、現在の運営体制や活動の見直しが必要な時期にきている。今後は、運営の効率化や新たな活動形態の可能性を模索し、持続可能な研究会の在り方を検討していく。